

4

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

✓ Select All

✗ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free

1. ☐ 2/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2003 Thomson Derwent. All rts. reserv.

012560864

WPI Acc No: 1999-366970/199931

XRAM Acc No: C99-108245

Emulsion composition used e.g. in shampoos - comprises
betaine type surfactants and glycerides

Patent Assignee: KAO CORP (KAOS)

Number of Countries: 001 Number of Patents: 001

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applicat No	Kind	Date	Week
JP 11139923	A	19990525	JP 97306998	A	19971110	199931 B

Priority Applications (No Type Date): JP 97306998 A 19971110

Patent Details:

Patent No Kind Lan Pg Main IPC Filing Notes

JP 11139923 A 17 A61K-007/00

Abstract (Basic): JP 11139923 A

Emulsion composition, comprises betaine type surfactant of the
formula $R1CONH(CH2)p-N+(CH3)(CH3)-(CH2)qCOO-$ (I); and glyceride of
formula $R2-N+(CH3)(CH3)-CH2COO-$ (II), and perfume, and
 $C(CH2-X1)(CH2-OH)H-X2$ (B-1) and $C(CH2-X3)(CH2-Y1-R3)H-X4$ (B-2), the
ratio of B-1 to B-2 being 100:0 to 30:70 by weight, where $R1 = 7-19C$;
 $R2$ is hydrocarbon; and p and $q = 1-4$; one of $X1$ and $X2$ and one of $X3$
and $X4$ are OH and the others are $-Y2-R4$; $Y2 = \text{oxygen atom or } -O-C(=O)-$;
 $R4 = 8-22C \text{ hydrocarbon}$; $Y1 = \text{oxygen atom or } -O-C(=O)-$; and $R3 = 8-22C$
hydrocarbon.

USE - Can be used in shampoos, rinses, etc..

ADVANTAGE - Prolonged perfume odour can be attained.

Dwg. 0/0

Title Terms: EMULSION; COMPOSITION; SHAMPOO; COMPRISE; BETAINE; TYPE;
SURFACTANT

Derwent Class: D21; E19

International Patent Class (Main): A61K-007/00

International Patent Class (Additional): A61K-007/075; A61K-007/46;
A61K-007/50

File Segment: CPI

Derwent WPI (Dialog® File 352): (c) 2003 Thomson Derwent. All rights reserved.

✓ Select All

✗ Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Display Selected

Format

Free



© 2003 The Dialog Corporation

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-139923

(43) 公開日 平成11年(1999) 5月25日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 6 1 K 7/00

A 6 1 K 7/00

C

N

7/075

7/075

7/46

7/46

B

7/50

7/50

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号

特願平9-306998

(22) 出願日

平成9年(1997)11月10日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 土蔵 圭二

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会社
社研究所内

(72) 発明者 平山 良一

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 渋谷 文夫

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 弁理士 有賀 三幸 (外3名)

(54) 【発明の名称】 乳化組成物

(57) 【要約】

【解決手段】 (A) ベタイン型界面活性剤、(B) モノグリセライド又はモノグリセリルエーテルとジグリセライド又はジグリセリルエーテルとを重量比で100:0~30:70含有するグリセライド類、及び(C) 香料を含有する乳化組成物。

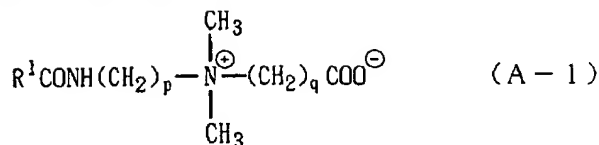
【効果】 香気の持続性に優れ、洗い流した後においても所期の香りをバランスよく持続する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分 (A)、(B) 及び (C) ;

(A) 次の一般式 (A-1) 及び (A-2)

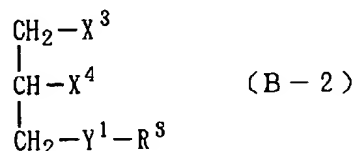
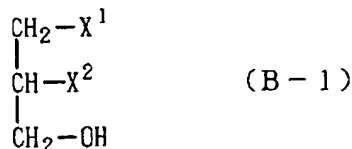
【化1】



〔式中、 R^1 は炭素数7～19の炭化水素基を示し、 R^2 は炭素数8～20の炭化水素基を示し、 p 及び q は1～4の整数を示す。〕で表わされるベタイン型界面活性剤から選ばれる1種又は2種以上

(B) 次の化合物 (B-1) 及び化合物 (B-2) を重量比で (B-1) : (B-2) = 100 : 0～30 : 70 含有するグリセライド類

【化2】



〔式中、 X^1 、 X^2 、 X^3 及び X^4 は、 X^1 及び X^2 の一方並びに X^3 及び X^4 の一方が水酸基を示し、他方が $-\text{Y}^2-\text{R}^4$ (ここで Y^2 は酸素原子又は $-\text{O}-\text{C}(=\text{O})-$ を示し、 R^4 は炭素数8～22の炭化水素基を示す) を示し、 Y^1 は酸素原子又は $-\text{O}-\text{C}(=\text{O})-$ を示し、 R^5 は炭素数8～22の炭化水素基を示す。〕

(C) 香料

を含有することを特徴とする乳化組成物。

【請求項2】 (C) 成分が、次の (C-1)、(C-2) 及び (C-3)

(C-1) 25℃における蒸気圧が0.10mmHg以上である炭化水素テルペン類、アルデヒド類、エステル類、エーテル類、アルコール類及びケトン類から選ばれる香気成分

(C-2) 常圧における沸点が220℃以上である α 、 β -不飽和アルデヒド類及び α 、 β -不飽和ケトン類から選ばれる香気成分

(C-3) 常圧における沸点が220℃以上であって、 α 、 β -不飽和アルデヒド類及び α 、 β -不飽和ケトン

類に属さない香気成分

から選ばれる1種又は2種以上を含有するものである請求項1記載の乳化組成物。

【請求項3】 更に、(D) シリコーン誘導体を含有し、30℃における粘度が2000cp以上であり、半透明から白色の乳化物外観を呈し、希釈時のエマルジョンの平均粒子径が0.5～200 μm である請求項1又は2記載の乳化組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、香気の持続性に優れた乳化組成物に関し、更に詳しくは、洗い流した後においても香りが持続する、洗い流して使用するタイプの乳化組成物、特にシャンプー、リンス等の毛髪化粧料として好適な乳化組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、多くの洗浄剤に香料が配合されている。香料が配合されることにより、洗浄剤のもつ生地臭をマスキングしたり、使用時の心地良さを付与することができる。また、毛髪、肌、衣服等に残る香りは、製品使用者本人だけでなく、他の人にも常に意識の対象となるため、大変重要なものである。更に香りは、その製品の商品コンセプトを代表するものであり、消費者の購買意欲にも大きく影響を与える。このように、香料は、製品の使用感や効果に影響を与え、生理心理効果も大きい。従って、用いられる香料は、使用時において魅力的であると同時に、使用後の香りの持続性にも優れていることが求められている。

【0003】シャンプー、リンス等の洗い流して使用するタイプの洗浄剤にも香料が配合され、使用後においても香りが持続することが求められている。しかしながら、これらの洗浄剤では、洗い流すという形態のため、香料が毛髪に残りにくく、使用後に香気を持続させることが困難であった。加えて、特に比較的蒸気圧の高い香料は残りにくく、使用時の魅力的な香りをバランスよく持続させることは更に困難であった。

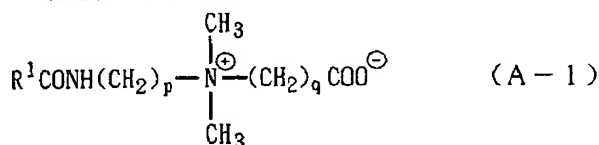
【0004】

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的

は、洗い流して使用した後においても、香りが持続する乳化組成物を提供すること、及び更に、比較的蒸気圧の高く残りにくい香料の香りも持続させ、設計された所期の香りをバランスよく持続する乳化組成物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、このような実情において鋭意検討を行った結果、(A) 特定のベタイン型界面活性剤、(B) モノグリセライド類又はモノグリセライド類とジグリセライド類との一定比率の混
10 合物に (C) 香料を組み合わせて配合した乳化組成物が、上記要求を満足するものであること、及び更に、この系に (D) 特定のシリコーン誘導体を配合することに

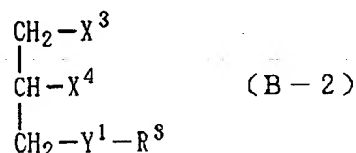
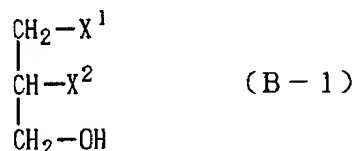


【0008】〔式中、 R^1 は炭素数 7～19 の炭化水素基を示し、 R^2 は炭素数 8～20 の炭化水素基を示し、 p 及び q は 1～4 の整数を示す。〕で表わされるベタイン型界面活性剤から選ばれる 1 種又は 2 種以上

(B) 次の化合物 (B-1) 及び化合物 (B-2) を重量比で (B-1) : (B-2) = 100 : 0～30 : 70 含有するグリセライド類

【0009】

【化 4】



【0010】〔式中、 X^1 、 X^2 、 X^3 及び X^4 は、 X^1 及び X^2 の一方並びに X^3 及び X^4 の一方が水酸基を示し、他方が $-\text{Y}^2-\text{R}^4$ (ここで Y^2 は酸素原子又は $-\text{O}-\text{C}(=\text{O})-$ を示し、 R^4 は炭素数 8～22 の炭化水素基を示す) を示し、 Y^1 は酸素原子又は $-\text{O}-\text{C}(=\text{O})-$ を示し、 R^3 は炭素数 8～22 の炭化水素基を示す。〕

より、使用時の魅力的な香りをよりバランスよく持続させることを見出し、本発明を完成するに至った。なお、本発明における香料の蒸気圧及び沸点は「香料の化学」赤星著、大日本図書 (昭和 58 年 9 月 16 日)、「Physical foundations in perfumery(I)～(X)」Louis Appel 1 著 (1964～1970)、及び「香料と調香の基礎知識」中島基貴編著、産業図書に基づいている。

【0006】すなわち、本発明は、次の成分 (A)、(B) 及び (C) ;

(A) 次の一般式 (A-1) 及び (A-2)

【0007】

【化 3】

(C) 香料
を含有することを特徴とする乳化組成物を提供するものである。

【0011】

【発明の実施の形態】本発明に用いられる (A) ベタイン型界面活性剤は、前記一般式 (A-1) 及び (A-2) で表わされるものであるが、該式中、 R^1 で示される炭素数 7～19 の炭化水素基としては、直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基が好ましい。また、 R^2 で示される炭素数 8～20 の炭化水素基としては、直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基が好ましい。また p は 2 又は 3 がより好ましく、 q は 1 がより好ましい。

【0012】上記成分 (A) のうち、ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ヤシ油脂脂肪酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン等が特に好ましい。これらのベタイン型界面活性剤は、場合によっては、脱塩して使用される。

【0013】これらの成分 (A) ベタイン型界面活性剤は、それぞれ単独で又は 2 種以上を組み合わせて配合してもよい。これら成分 (A) の本発明組成物への配合量は、香りの持続性、乳化安定性、シリコーン誘導体の分散性、コンディショニング効果の観点から 1～30 重量 % (以下、単に % で示す)、特に 2～20 % が好ましい。また、本発明組成物を洗浄剤組成物として用いる場合には、成分 (A) を 1～20 %、特に 2～15 % 配合

するのが好ましい。一方、本発明組成物をヘアリンス、ヘアトリートメント等のアフターシャンプー用ヘアケア剤として用いる場合には、成分(A)を3~30%、特に4~20%配合するのが好ましい。

【0014】成分(B)のグリセライド類は、前記式(B-1)で表わされるモノグリセライド若しくはモノグリセリルエーテル；又は式(B-1)で表わされるモノグリセライド若しくはモノグリセリルエーテルと式(B-2)で表わされるジグリセライド若しくはジグリセリルエーテルとの混合物であって化合物(B-1)を30%以上含むものである。この混合物における化合物(B-1)の含量が30%未満の場合には、香りの持続性、組成物の粘度が低下し、またコンディショニング効果が十分でない。

【0015】前記式(B-1)及び(B-2)中、 Y^1 及び Y^2 としては、 $-O-C(=O)-$ がより好ましい。また、 R^3 及び R^4 で示される炭素数8~22の炭化水素基としては、アルキル基又はアルケニル基が好ましい。また、これらの R^3 及び R^4 は、一種の脂肪酸由来の炭化水素基でなく、2種以上の脂肪酸由来の炭化水素基の組み合わせであるのがより好ましい。例えば R^3 及び R^4 が炭素数8~14のアルキル基又はアルケニル基であるグリセライド類(B)と R^3 及び R^4 が炭素数16~22のアルキル基又はアルケニル基であるグリセライド類(B)との混合物を用いるのが特に好ましい。

【0016】成分(B)は、残香性、コンディショニング効果の点から全組成中に0.5~20%配合するのが好ましく、特に1~15%、更に3~10%配合するのが好ましい。

【0017】成分(C)としては、次の(C-1)、(C-2)及び(C-3)

(C-1) 25℃における蒸気圧が0.10mmHg以上である炭化水素テルペン類、アルデヒド類、エステル類、エーテル類、アルコール類及びケトン類から選ばれる香気成分

(C-2) 常圧における沸点が220℃以上である α 、 β -不飽和アルデヒド類及び α 、 β -不飽和ケトン類から選ばれる香気成分

(C-3) 常圧における沸点が220℃以上であって、 α 、 β -不飽和アルデヒド類及び α 、 β -不飽和ケトン類に属さない香気成分から選ばれる1種又は2種以上が含まれているのが好ましい。

【0018】(C-1)の具体例としては、以下の[1]~[6]に示す香気成分が挙げられる。

【0019】[1]炭化水素テルペン

リモネン(ジペンテン)、p-サイメン、ターピノレン、 α -ターピネン、 γ -ターピネン、 α -フェランドレン、ミルセン、カンフェン、オシメン、ピネン(α -、 β -体)

【0020】[2]アルデヒド類

ヘプタナール、オクタナール、ベンズアルデヒド、シリシクアルデヒド、フェニルアセトアルデヒド、シトロネラール、ハイドロトロピックアルデヒド、リグストラール(2,4-ジメチル-3-シクロヘキセニルカルボキシアルデヒド)

【0021】[3]エステル類

エチルフォルメート、メチルアセテート、エチルアセテート、メチルプロピオネート、ジアセチル、メチルイソブチレート、エチルイソブチレート、エチルブチレート、プロピルブチレート、イソブチルアセテート、イソブチルイソブチレート、イソブチルブチレート、イソブチルイソバレレート、イソアミルアセテート、イソアミルプロピオネート、アミルプロピオネート、アミルイソブチレート、アミルブチレート、アミルイソバレレート、アリルヘキサノエート、エチルアセトアセテート、エチルヘプチレート、ヘプチルアセテート、メチルベンゾエート、エチルベンゾエート、エチルオクチレート、スチラリルアセテート、ベンジルアセテート

【0022】[4]エーテル類

1,8-シネオール、アニソール、p-クレシルメチルエーテル、ジメチルヒドロキノン

【0023】[5]アルコール類

エチルアルコール、イソプロピルアルコール、cis-3-ヘキセノール、ヘプタノール、2-オクタノール、プロピレングリコール、リナロール、ベンジルアルコール

【0024】[6]ケトン類

メントン、アセトフェノン

【0025】(C-2)の具体例としては、以下の<1>及び<2>に示す香気成分が挙げられる。

【0026】<1> α 、 β -不飽和アルデヒド類

シトラール、 α -ヘキシルシンナミックアルデヒド、 α -アミルシンナミックアルデヒド、ヘリオトロピン、アニスアルデヒド、バニリン、エチルバニリン

【0027】<2> α 、 β -不飽和ケトン類

ダマスコン(α -、 β -体)(2,6,6-トリメチル-trans-1-クロトニルシクロヘキセン-1又は2)、ダマセノン(α -、 β -体)、ヨノン(α -、 β -、 γ -体)、メチルヨノン(α -、 β -、 γ -体)、メチル- β -ナフチルケトン、ベンゾフェノン、トナリド(7-アセチル-1,1,3,4,4,6-ヘキサメチルテトラヒドロナフタレン)、メチルセドリン、イソメチルヨノン(α -、 β -体)、イロン(α -、 β -、 γ -体)、マルトール、エチルマルトール、cis-ジャスモン、ジヒドロジャスモン、1-カルボン

【0028】(C-3)の具体例としては、以下の(1)~(5)に示す香気成分が挙げられる。

【0029】(1)アルデヒド類

リリアール(p-tert-ブチル- α -メチルヒドロシンナミックアルデヒド)、シクラメンアルデヒド(p-イ

ソプロビル- α -メチル-ヒドロシナミックアルデヒド)、リラル[4-(4-ヒドロキシ-4-メチルペンチル)-3-シクロヘキセン-1-カルボキシアルデヒド]、ヘリオナル、ヒドロキシシトロネラル

【0030】(2) エステル類

ノニルアセテート、ポロニルアセテート、ジエチルフタレート、安息香酸リナリル、エチルシンナメート、ヘキシルサリシレート、ベンジルサリシレート、メチルアセテート、ターピニルアセテート、アニシルアセテート、フェニルエチルイソブチレート、ジヒドロジャスモン酸メチル、 γ -ウンデカラクトン、 γ -ノニラクトン、クマリン

【0031】(3) エーテル類

メチルオイゲノール、 β -ナフトールメチルエーテル、 β -ナフトールエチルエーテル、アネトール、チモール、ジフェニルオキサイド、ガラクソリド(1, 3, 4, 6, 7, 8-ヘキサヒドロ-4, 6, 6, 7, 8, 8-ヘキサメチルシクロペンタ- γ -2-ベンゾピラン)

【0032】(4) アルコール類

シトロネロール、ゲラニオール、ターピネオール、テトラヒドロゲラニオール、アニスアルコール、合成サンダルウッド、フェニルエチルアルコール、ネロール、オイゲノール

【0033】(5) ケトン類

ベンジルアセトン、カロン(7-メチル-3, 4-ジヒドロ-(2H)-1, 5-ベンゾオキセピン-3-オン)、ラズベリーケトン[4-(4-ヒドロキシフェニル)-2-ブタノン]、アニシルアセトン(p-メトキシフェニルブタノン)

【0034】(C)成分は、全組成中、多く含まれれば含まれるほど、長時間香りを残すことができるが、所期の香気バランスを持続するためには、全組成中、0.0001%~30%、特に0.01~1%配合するのが好ましい。

【0035】なお、(C)成分のうち、(C-1)は蒸気圧が高く、香気に残りにくい成分であるが、本発明ではこのような香気成分の香気も長時間持続させることができる。また、沸点が220℃以上である(C-2)及び(C-3)、特に α 、 β -不飽和結合を有する(C-2)は香気が持続しやすい成分であるが、本発明ではこのような香気成分の香気をより長時間持続させることができる。従って、本発明の効果は、従来香気を持続させることが困難であった香料の香気を持続させることができるという点では(C-1)の場合に顕著である。一方、香気の持続のしやすさの点では、(C-2)又は(C-3)、特に(C-2)が優れている。

【0036】前記の(C-1)、(C-2)及び(C-3)の分類は前述の文献に基づいたが、蒸気圧と沸点という相異なる特性によって分類したものであり、またこ

れらの特性値もその出典によって異なることがあるので、(C-1)に属し、かつ(C-2)又は(C-3)にも属する場合もある。前記の分類ではこのような重複成分は(C-1)としている。

【0037】本発明の乳化組成物には、更に(D)シリコーン誘導体を配合することにより、洗浄時及び洗浄後の毛髪のすべり性をより向上させ(毛髪化粧料の場合)、洗い流した後の香りの持続性をより向上させ、香りをより長時間かつよりバランスよく持続させることができる。かかるシリコーン誘導体としては、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、アミノ変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン、脂肪酸変性シリコーン、フッ素変性シリコーン、環状シリコーン、アルキル変性シリコーン、アルコール変性シリコーン、脂肪族アルコール変性シリコーン、エポキシ変性シリコーン等が挙げられる。

【0038】これらのシリコーン誘導体のうち、20℃における粘度が $1 \sim 1 \times 10^8$ cs、特に $10 \sim 5 \times 10^7$ csのものが好ましい。

20 【0039】(D)シリコーン誘導体は、単独で又は2種以上を組合わせて用いることができ、全組成中に0.1~15%、特に0.5~10%配合するのが好ましい。

【0040】本発明組成物には、更に(E)アニオン界面活性剤を配合することができ、成分(E)の配合は本発明組成物をヘアシャンプー等の洗浄剤として用いる場合に特に重要である。かかるアニオン界面活性剤としては、通常組成物に洗浄成分として配合されるものであれば特に制限されず、例えば以下の(i)~(xi)に示すものが挙げられる。

30 【0041】(i)アルキルベンゼンスルホン酸塩、好ましくは平均炭素数10~16のアルキル基を有する直鎖又は分岐鎖のアルキルベンゼンスルホン酸塩。

【0042】(ii)アルキルエーテル硫酸塩又はアルケニルエーテル硫酸塩、好ましくは平均炭素数10~20の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を有し、1分子内に平均0.5~8モルのエチレンオキサイド、プロピレンオキサイド、ブチレンオキサイド、エチレンオキサイドとプロピレンオキサイド(0.1/9.9~9.9/0.1)、あるいはエチレンオキサイドとブチレンオキサイド(0.1/9.9~9.9/0.1)が付加したアルキルエーテル硫酸塩又はアルケニルエーテル硫酸塩。

【0043】(iii)アルキル硫酸塩又はアルケニル硫酸塩、好ましくは平均炭素数10~20のアルキル基又はアルケニル基を有するアルキル又はアルケニル硫酸塩。

50 【0044】(iv)オレフィンスルホン酸塩、好ましくは平均10~20の炭素原子を1分子中に有するオレフィンスルホン酸塩。

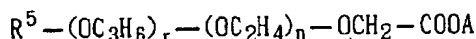
【0045】(v) アルカンスルホン酸塩、好ましくは平均10～20の炭素原子を1分子中に有するアルカンスルホン酸塩。

【0046】(vi) 高級脂肪酸塩、好ましくは平均10～24の炭素原子を1分子中に有する飽和又は不飽和脂肪酸塩。

【0047】(vii) アミドエーテルカルボン酸型界面活性剤、好ましくは次の式で表わされるアミドエーテルカルボン酸型界面活性剤

【0048】

【化5】



【0049】〔式中、 R^5 は直鎖もしくは分岐鎖の炭素数8～22のアルキル基もしくはアルケニル基、アルキル($C_8 \sim C_{22}$)フェニル、又は $R^6CONH-CH_2-CH_2-$ (式中、 R^6 は炭素数11～21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基である)基を示し、 n は2～24の数、 r は0～6の数を示し、 A は水素原子、ナトリウム、カリウム、リチウム、マグネシウム、モノエタノールアミン、アンモニウム又はトリエタノールアミンの残基を示す。〕

【0050】(viii) α -スルホ脂肪酸塩又はエステル、好ましくは平均10～20の炭素原子から成るアルキル基又はアルケニル基を有する α -スルホ脂肪酸塩又はエステル。

【0051】(ix) N -アシルアミノ酸型界面活性剤、好ましくは炭素数8～24のアシル基、及び遊離カルボン酸残基を有する N -アシルアミノ酸型界面活性剤。

【0052】(x) リン酸エステル型界面活性剤、好ましくは炭素数8～24のアルキル基又はアルケニル基を有するリン酸モノ又はジエステル型界面活性剤。

【0053】(xi) スルホコハク酸エステル界面活性剤、好ましくは炭素数8～22の高級アルコール若しくはそのエトキシレートなどのスルホコハク酸エステル又は高級脂肪酸アミド由来のスルホコハク酸エステル。

【0054】これらのアニオン界面活性剤のアニオン性残基の対イオンとしては、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属イオン、カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属イオン、アンモニウムイオン、炭素数2又は3のアルカノール基を1～3個有するアルカノールアミン(例えばモノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、トリイソプロパノールアミンなど)を挙げることができる。

【0055】これらのアニオン界面活性剤のうち、特に(ii) アルキルエーテル硫酸塩又はアルケニルエーテル硫酸塩、(iii) アルキル硫酸塩、(vi) 飽和又は不飽和脂肪酸塩、(ix) アシル化アミノ酸、(x) リン酸モノエステル型界面活性剤、(xi) スルホコハク酸エステルが好ましく、更に(ii) アルキルエーテル硫酸塩又は

アルケニルエーテル硫酸塩が好ましい。

【0056】成分(E)のアニオン界面活性剤は、単独で又は2種以上を組み合わせ用いることができ、ヘアシャンプー等洗浄剤とする場合の洗浄力及び起泡性の点から、全組成中に1～40%配合するのが好ましく、特に2～30%、更に3～20%配合するのが好ましい。

【0057】また、本発明の乳化組成物には、更に香りの持続性、毛髪のすべり性及び感触を向上させる目的で、(F)水溶性ポリマーを配合することができ、該水溶性ポリマーとしては、天然、半合成及び合成のいずれのポリマーを用いてもよく、またカチオン、アニオン、非イオン等のいずれのポリマーを用いてもよい。

【0058】天然の水溶性ポリマーとしては、例えばアラビアガム、トラガカントガム、ガラクトン、グアーガム、キャロブガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、カンテン、クインスード(マルメロ)、グリチルリチン酸等の植物系ポリマー、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、プルラン等の微生物系ポリマー、更にはケラチン物質分解誘導体等のタンパク質加水分解物系ポリマーが挙げられる。

【0059】半合成の水溶性ポリマーとしては、例えばカチオン性デンプン、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等のデンプン系ポリマー、カチオン化セルロース誘導体、メチルセルロース、ニトロセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム(CMC)、結晶セルロース、セルロース末等のセルロース系ポリマー、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等のアルギン酸系ポリマー、カチオン化グアーガム誘導体等が挙げられる。

【0060】合成の水溶性ポリマーとしては、例えばジアリル4級アンモニウム塩のホモポリマー；ジアリル4級アンモニウム塩/アクリルアミド共重合体；4級化ポリビニルピロリドン誘導体；ポリビニルピロリドン；ビニルピロリドンと酢酸ビニル、アルキルアミノアクリレート等の共重合体；メチルビニルエーテルと無水マレイン酸との共重合体の低級アルキルハーフエステル；酢酸ビニルとクロトン酸等との共重合体；アクリル酸及び/又はメタクリル酸とアクリル酸アルキルエステル及び/又はメタクリル酸アルキルエステルとの共重合体；アクリル酸とアクリル酸アルキルエステルと N -アルキルアクリル酸アミドとの共重合体；ジアルキルアミノエチルメタクリレート、ジアルキルアミノエチルアクリレート、ダイアセトンアクリルアミド等とアクリル酸、メタクリル酸、アクリル酸アルキルエステル、メタクリル酸アルキルエステル等との共重合体の両性化合物；アクリル酸ヒドロキシプロピルとメタクリル酸ブチルアミノエチル及びアクリル酸オクチルアミドとの三元共重合体；ア

ルキルアクリルアミド、アクリレート、アルキルアミノアルキルアクリルアミド及びポリエチレングリコールメタクリレートの共重合体等が挙げられる。

【0061】これらの水溶性ポリマーのうち、特にポリマー鎖に結合してアミノ基又はアンモニウム基を含むか、又は少なくともジメチルジアリルアンモニウムハライドを構成単位として含む水溶性カチオンポリマーが好ましく、例えばカチオン化セルロース誘導体、カチオン性デンプン、カチオン化グアーガム誘導体、ジアリル4級アンモニウム塩のホモポリマー、ジアリル4級アンモニウム塩／アクリルアミド共重合物、4級ポリビニルピロリドン誘導体等が挙げられる。

【0062】カチオン化セルロース誘導体としては、次の一般式(1)で表わされるものが好ましい。

【0063】

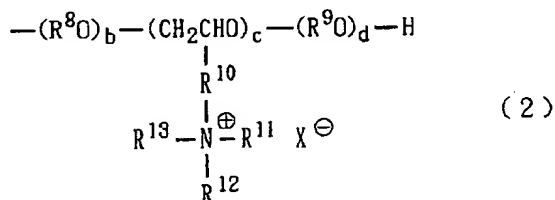
【化6】



【0064】〔式中、Bはアンヒドログルコース単位の残基を示し、aは50～200の整数であり、各R⁷は、それぞれ次の一般式(2)で表わされる置換基を示す。〕

【0065】

【化7】



【0066】〔式中、R⁸及びR⁹は炭素数2又は3のアルキレン基を示し、bは0～10の整数を示し、cは0～3の整数を示し、dは0～10の整数を示し、R¹⁰は炭素数1～3のアルキレン基又はヒドロキシアルキレン基を示し、R¹¹、R¹²及びR¹³は同一か又は異なり、炭素数20までのアルキル基、アリール基もしくはアラルキル基を示し又は式中の隣接窒素原子と共に複素環を形成してもよい。X⁻は陰イオン(塩素、臭素、沃素、硫酸、スルホン酸、メチル硫酸、リン酸、硝酸等)を示す。〕

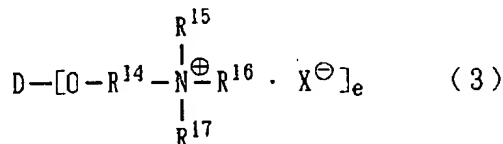
【0067】カチオン化セルロースのカチオン置換度は、0.01～1、すなわちアンヒドログルコース単位あたりのcの平均値は、0.01～1、好ましくは0.02～0.5である。また、b+dの合計は平均で1～3である。カチオン置換度が0.01未満では十分な効果が得られず、また1を超えてもかまわないが反応率が低下する。例えばR¹¹、R¹²及びR¹³としては全てCH₃基、又は2つがCH₃基などの短鎖アルキル基であり残り

1つが炭素数10～20の長鎖アルキル基であるものが好ましい。ここで用いるカチオン化セルロースの分子量は約100,000～8,000,000である。

【0068】カチオン性澱粉としては次の一般式(3)で表わされるものが好ましい。

【0069】

【化8】



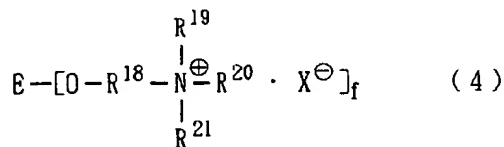
【0070】〔式中、Dは澱粉残基を示し、R¹⁴はアルキレン基又はヒドロキシアルキレン基を示し、R¹⁵、R¹⁶及びR¹⁷は同一か又は異なり、炭素数10以下のアルキル基、アリール基、アラルキル基を示し又は式中の隣接窒素原子と共に複素環を形成してもよい。X⁻は前記と同じ意味を示し、eは正の整数を示す。〕

【0071】カチオン性澱粉のカチオン置換度は0.01～1、すなわち無水グルコース単位当たり0.01～1個、特に0.02～0.5個のカチオン基が導入されたものが好ましい。置換度が0.01未満では十分な効果が得られず、また1を超えてもかまわないが反応率が低下する。

【0072】カチオン化グアーガム誘導体としては、次の一般式(4)で表わされるものが好ましい。

【0073】

【化9】

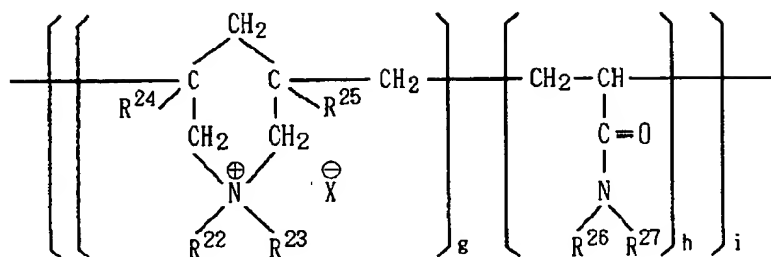


【0074】〔式中、Eはグアーガム残基を示し、R¹⁸はアルキレン基又はヒドロキシアルキレン基を示し、R¹⁹、R²⁰及びR²¹は同一か又は異なり、炭素数10以下のアルキル基、アリール基もしくはアラルキル基を示し又は式中の隣接窒素原子と共に複素環を形成してもよい。X⁻は前記と同じ意味を示し、fは正の整数を示す。〕

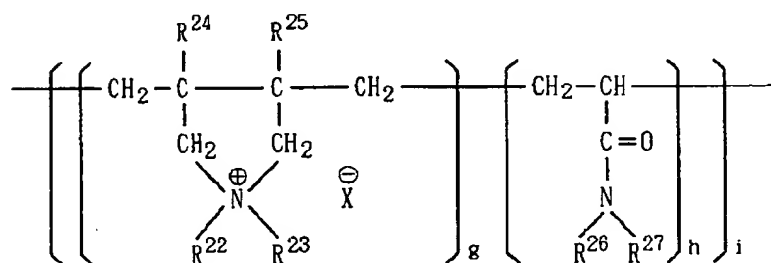
【0075】カチオン化グアーガム誘導体のカチオン置換度は、0.01～1、すなわち0.01～1個、特に0.02～0.5個のカチオン基が糖ユニットに導入されたものが好ましい。この型のカチオン性ポリマーは、特公昭58-35640号公報、特公昭60-46158号公報、及び特開昭58-53996号公報中に記載されており、例えばセラニーズーシュタイン・ホール社から商標名ジャグアールで市販されている。

【0076】ジアリル四級アンモニウム塩重合物又はジアリル四級アンモニウム塩／アクリルアミド共重合物と

しては、次の一般式 (5) 又は (6) で表わされるものが好ましい。



(5)



(6)

【0078】〔式中、R²²及びR²³は同一か又は異なり、水素原子、アルキル基（炭素数1～18）、フェニル基、アリール基、ヒドロキシアルキル基、アミドアルキル基、シアノアルキル基、アルコキシアルキル基又はカルボアルコキシアルキル基を示し、R²⁴、R²⁵、R²⁶及びR²⁷は同一又は異なり、水素原子、低級アルキル基（炭素数1～3）又はフェニル基を示し、X⁻は前記と同じ意味を示し、gは1～50の整数を示し、hは0～50の整数を示し、iは150～8,000の整数を示す。〕

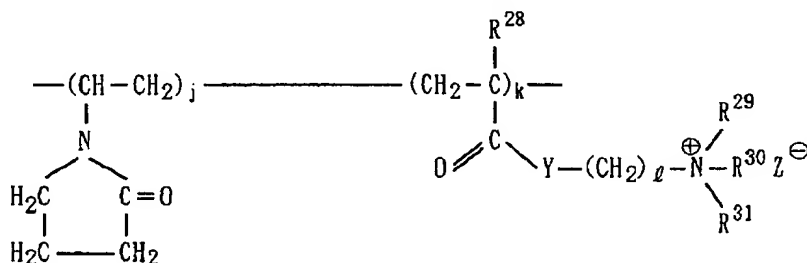
0の整数を示す。〕

【0079】ジアリル四級アンモニウム塩／アクリルアミド共重合物の分子量としては約30,000～2,000,000、特に100,000～1,000,000の範囲が好ましい。

【0080】四級化ポリビニルピロリドン誘導体としては、次の一般式 (7) で表わされるものが好ましい。

【0081】

【化11】



(7)

【0082】〔式中、R²⁸は水素原子又は炭素数1～3のアルキル基を示し、R²⁹、R³⁰及びR³¹は同一か又は異なり、水素原子、炭素数1～4のアルキル基、ヒドロキシアルキル基、アミドアルキル基、シアノアルキル基、アルコキシアルキル基又はカルボアルコキシアルキル基を示し、Yは酸素原子又はアミド結合中のNH基を示し、Zは陰イオン（塩素、臭素、碘素、硫酸、スルホン酸、炭素数1～4のアルキル硫酸、リン酸、硝酸等）を示し、lは1～10の整数を示し、j+kは20～8,000の整数である〕

【0083】四級化ポリビニルピロリドン誘導体の分子量としては、10,000～2,000,000、特に50,000～1,500,000が好ましい。上記のビニル重合体中に含まれるカチオン性高分子に由来するカチオン性窒素の含有量は、ビニル重合体に対して0.004～0.2%、特に0.01～0.15%が好ましい。0.004%未満では十分な効果が得られず、0.2%を超えると性能的にはよいがビニル重合体の着色原因にもなり、また経済的にも不利となる。

【0084】これらのカチオン性ポリマーのなかで、特

にカチオン化セルロース、ジアリルアンモニウム塩重合
物、ジアリルアンモニウム塩／アクリルアミド共重合
物などが好ましい。

【0085】(F)水溶性ポリマーは、単独で又は2種
以上を組合わせて配合することができ、全組成中に0.
05～3%、特に0.1～1.5%配合するのが好まし
い。

【0086】更に、本発明の乳化組成物には、上記成分
のほか、毛髪化粧料、身体洗浄剤、衣料洗浄剤等に通常
用いられる成分、例えば水、成分(A)として用いられ
るベタイン型界面活性剤以外の両性界面活性剤；ノニ
オン界面活性剤；プロピレングリコール、グリセリン、グ
ルコース、ジエチレングリコールモノエチルエーテル等
の保湿剤；エタノール等の粘度調整剤；色素；紫外線吸
収剤；酸化防止剤；抗菌剤；メチルパラベン、ブチルパ
ラベン等の防腐剤などを、発明の効果を損なわない範囲
で適宜添加することができる。

【0087】本発明の乳化組成物は、上記成分を室温で
又は必要により加熱して混合攪拌して、30℃における
粘度が2,000cp以上であり、半透明から白色の乳化
物外観を呈し、希釈時のエマルションの平均粒子径が
0.5～200μmとなるように調製するのが好まし
い。

【0088】ここで、粘度はB型粘度計を用いて測定さ
れる粘度であり、30℃における粘度が2,000cp未
満の場合には安定性が低下するため好ましくなく、2、

調合香料A

リモネン	150 (重量部)
cis-3-ヘキサノール	10
リグストラール	5
ヘリオナール	15
ベンジルアルコール	150
ベンズアルデヒド	1
リリアール	30
リラル	20
α-ダマスコン	1
ジヒドロジャスモン酸メチル	60
リナロール	200
ベンジルサリシレート	50
クマリン	1
バニリン	2
テンタローム	80
β-ヨノン	20
γ-ウンデカラクトン	8
cis-ジャスモン	2
ジエチルフタレート	195
	1000

【0094】

調合香料B

リモネン	250 (重量部)
------	-----------

000～100,000cp、特に2,000～50,000cpとするのが好ましい。

【0089】また、希釈時のエマルションの平均粒子径
は、組成物（水中油型）を一定の粒径のエマルションに
なるまで希釈し、エマルションを形成している油滴の粒
子径をレーザー回折／散乱式粒度分布測定装置により測
定することにより求められる。該エマルションの平均粒
子径が0.5μm未満の場合にはコンディショニング効
果が十分得られず、200μmを超える場合には乳化系
が不安定となり、該粒子径は0.5～200μm、特に
1～100μmが好ましい。

【0090】また、本発明組成物は、用途により必要に
応じ、アルカリ性又は酸性薬剤を用いてpHを3～11に
調整することができる。本発明組成物は、毛髪化粧料の
ほか、ボディシャンプー、石けん、洗顔剤、衣料洗
剤、柔軟剤等、洗い流して使用されるものであって賦香
されるものであればいずれにも適用することができる
が、特にヘアシャンプー、ヘアリンス、ヘアトリートメ
ント、ヘアコンディショナーとして好適に用いられる。

【0091】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明を詳細に説明する
が、本発明はこれにより何ら限定されるものではない。

【0092】なお、以下の実施例において用いた調合香
料の組成を次に示す。

【0093】

17	18
ベンジルアセテート	80
cis-3-ヘキサノール	1
ゲラニオール	50
オイゲノール	5
リグストラール	5
ヘリオナール	15
シトロネロール	70
フェニルエチルアルコール	30
ヘキシルシンナミックアルデヒド	65
リリアール	90
リラール	30
α -ダマスコン	1
β -ダマスコン	1
ジヒドロジャスモン酸メチル	30
バニリン	2
ガラクソリド	30
テンタローム	50
γ -メチルヨノン	60
α -ヨノン	5
β -ヨノン	5
γ -ウンデカラクトン	30
ジエチルフタレート	95
	1000

【0095】

調合香料C

フェニルエチルアルコール	130 (重量部)
ゲラニオール	520
シトロネロール	260
ネロール	90
	1000

【0096】

調合香料D

ベンジルアセテート	285 (重量部)
cis-3-ヘキサノール	3
インドール	27
ヘキシルシンナミックアルデヒド	135
ベンジルアルコール	10
p-クレゾール	3
リナロール	70
オイゲノール	7
マルトール	0.3
バニリン	4
γ -ウンデカラクトン	2
cis-ジャスモン	0.2
ジエチルフタレート	453.5
	1000

【0097】

調合香料E

ターピネオール	130 (重量部)
ゲラニオール	290

ハイドロキシシトロネラル
ヘリオトロピン

387

193

1000

【0098】実施例1

表1記載の毛髪化粧料組成物を調製し、組成物の外観、物性及び残香性を評価した。

【0099】(1) 評価方法

a. 外観・物性

30℃における粘度及び希釈時のエマルションの平均粒径を測定し、外観を観察した。

【0100】ここで、粘度はB型粘度計により測定した。外観は目視により判定し、半透明から白色の乳化物を呈するものを○、それ以外のものを×とした。エマルションの平均粒子径は、組成物を水で希釈した後、レーザ一回折/散乱式粒度分布測定装置LA-910及び自動希釈ユニットLY-101（いずれも堀場製作所社製）を用いて測定した。

【0101】b. 残香性

人毛より作製した毛束20g（15cm）を用いて、乳化組成物を約4g塗布して洗髪し、濯いだ後、水分を十分タオルで拭き取った。これを、室温25℃、湿度65HRの環境に置き、処理直後、1時間後、8時間後、12時間後、24時間後の残香性を、次の基準で評価した。

◎：大変良好

10 ○：良好

△：どちらとも言えない

×：悪い

【0102】(2) 結果

その結果、表1に示す如く、本発明の毛髪化粧料組成物は、残香性が良好であった。また、乳化安定性も良好であった。

【0103】

【表1】

成分 (%)	シャンプー組成物				リンス組成物			
	本発明品1	本発明品2	比較品1	比較品2	本発明品3	本発明品4	比較品3	比較品4
ラウリン酸アミドプロピルジメチルアルミノ酢酸ヘタイン	4	4	—	4	6	6	—	6
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量80%以上)	3	3	3	—	3	3	3	—
オレイン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量30%以上)	5	5	5	—	5	5	5	—
オレイン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量約50%)	1	1	1	—	1	1	1	—
調合香料A	0.7	0.7	0.7	0.7	—	—	—	—
調合香料B	—	—	—	—	0.4	0.4	0.4	0.4
高重合メチルポリシロキサンエマルジョン	—	3	3	3	—	5	—	—
ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム塩	8	8	8	8	—	—	—	—
粘度 (cp)	3500	4600	20	1	1500	35000	— ^{*1}	10
外観	○	○	○	×	○	○	×	×
希釈時のエマルジョンの平均粒子径 (μm)	10	13	15	— ^{*2}	8	10	— ^{*2}	— ^{*2}
残香性 (処理直後)	◎	◎	△	△	◎	◎	△	△
残香性 (1時間後)	◎	◎	△	×	◎	◎	△	×
残香性 (8時間後)	◎	◎	×	×	◎	◎	×	×
残香性 (12時間後)	○	◎	×	×	○	◎	×	×
残香性 (24時間後)	○	○	×	×	○	○	×	×

*1: 乳化しなかったため測定せず。

*2: 測定できず。

【0104】実施例2

表2及び表3記載のシャンプー組成物及び表4及び表5記載のリンス組成物を調製した。得られた組成物はいずれも、30℃における粘度が2000cp以上であり、半透明から白色の乳化物外観を呈し、希釈時のエマルジョンの平均粒子径が0.5~200μmであった。残香性

を実施例1と同様に評価したところ、いずれも良好 (○) ~ 大変良好 (◎) であった。また乳化安定性も良好であった。

【0105】

【表2】

成 分 (%)	シャ ン プ ー			
	発明品5	発明品6	発明品7	発明品8
ジエチレングリコールモノエチルエーテル		0.5		
ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム塩	8	8	10	10
ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン	4		5	4
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン		4		
ラウリルヒドロキシスルホベタイン	1		2	1
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキエチルイミダゾリニウムベタイン	1	2	1	2
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	2	2	2	
ステアリルトリメチルアンモニウムクロリド				
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量80%以上)	3		2	
ラウリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)		2	2	2
オレイン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)	4	4	3	3
オレイン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)	1			3
オレイン酸ステアリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量60%以上)		3		
ベヘニン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)			1	
高重合メチルポリシロキサンエマルジョン	3	3	2	3
アモジメチコーンエマルジョン	2	2	2	2
ポリエーテル変性シリコーン			1	
カチオン性ポリマー (マーコート100 カルゴン社製)		0.5		
カチオン性ポリマー (マーコート550 カルゴン社製)	1			1
カチオン化グアーガム (ラポールガムCGM 大日本製薬社製)		0.1		
調合香料A	0.7	0.7	0.7	0.7
pH調整剤	適量	適量	適量	適量
水	バランス	バランス	バランス	バランス

【0106】

【表3】

成 分 (%)	シャ ン プ ー			
	発明品9	発明品10	発明品11	発明品12
ジエチレングリコールモノエチルエーテル		0.5		
ポリオキシエチレン(3)ラウリルエーテル硫酸ナトリウム塩	8	8	10	10
ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン	4		5	4
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン		4		
ラウリルヒドロキシスルホベタイン	1		2	1
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン	1	2	1	2
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	2	2	2	
ステアリルトリメチルアンモニウムクロリド				
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量80%以上)	3		2	
ラウリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)		2	2	2
オレイン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)	4	4	3	3
オレイン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)	1			3
オレイン酸ステアリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量60%以上)		3		
ベヘニン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)			1	
高重合メチルポリシロキサンエマルジョン	3	3	2	3
アモジメチコーンエマルジョン	2	2	2	2
ポリエーテル変性シリコーン			1	
カチオン性ポリマー (マーコート100 カルゴン社製)		0.5		
カチオン性ポリマー (マーコート550 カルゴン社製)	1			1
カチオン化グアーガム (ラボールガムCGM 大日本製薬社製)		0.1		
調合香料B	0.7	0.7	0.7	0.7
pH調整剤	適 量	適 量	適 量	適 量
水	バランス	バランス	バランス	バランス

【0107】

【表4】

成 分 (%)	リ ン ス			
	発明品13	発明品14	発明品15	発明品16
ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン	6	6	6	
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン				5
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド		1	2	2
ステアリルトリメチルアンモニウムクロリド	1			
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量80%以上)	2		2	2
ラウリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)	1	3		1
オレイン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)		2	2	4
オレイン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)			3	
オレイン酸ステアリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量60%以上)	3			
ベヘニン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)		2	2	
セタノール	2			
高重合メチルポリシロキサンエマルジョン	5	5	4	5
アモジメチコーンエマルジョン	3	3	3	3
ポリエーテル変性シリコーン			1	
カチオン性ポリマー (マーコート550 カルゴン社製)			0.1	
パルミチン酸イソプロピル	0.1			
液状ラノリン	0.5		0.5	0.5
ヒドロキシエチルセルロース		0.2		
グリセリン	1		0.5	
プロピレングリコール	1			1
ジエチレングリコールモノエチルエーテル		1		
調合香料A	0.4	0.4	0.4	0.4
pH調整剤	適量	適量	適量	適量
水	バランス	バランス	バランス	バランス

【0108】

【表5】

成 分 (%)	リ ン ス			
	発明品17	発明品18	発明品19	発明品20
ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミノ酢酸ベタイン	6	6	6	
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン				5
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド		1	2	2
ステアリルトリメチルアンモニウムクロリド	1			
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量80%以上)	2		2	2
ラウリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)	1	3		1
オレイン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)		2	2	4
オレイン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量50%以上)			3	
オレイン酸ステアリン酸モノ・ジグリセライド (モノグリセライド含量60%以上)	3			
ペヘニン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量90%以上)		2	2	
セタノール	2			
高重合メチルポリシロキサンエマルジョン	5	5	4	5
アモジメチコーンエマルジョン	3	3	3	3
ポリエチル変性シリコーン			1	
カチオン性ポリマー (マーコート550 カルボン社製)			0.1	
パルミチン酸イソプロピル	0.1			
液状ラノリン	0.5		0.5	0.5
ヒドロキシエチルセルロース		0.2		
グリセリン	1		0.5	
プロピレングリコール	1			1
ジエチレングリコールモノエチルエーテル		1		
調合香料B	0.4	0.4	0.4	0.4
pH調整剤	適量	適量	適量	適量
水	バランス	バランス	バランス	バランス

【0109】実施例3 全身洗淨料

常法に従って、次に示す処方の全身洗淨料を調製した。

	(重量%)
2-ヘキシルデシルリン酸カリウム塩	30
ラウリルジメチルヒドロキシスルホベタイン	3
ラウロイルアミドプロピルジメチルカルボキシベタイン	5
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含量80%以上)	3
エタノール	3
ジブチルヒドロキシトルエン	0.1
調合香料C	0.5
水	バランス
計	100.0

この全身洗淨料は、洗い流した後においても使用時の香りをバランスよく持続するものであった。

【0110】実施例4 固形洗淨剤

常法に従って、次に示す処方の固形洗淨剤を調製した。

	(重量%)
石けん素地 (牛脂/ヤシ油=60/40)	81.5
ラウリン酸アミドプロピルベタイン	12
ステアリン酸グリセライド	5
顔料	0.3
調合香料D	1.2

31

32

計

100.0

この固形洗浄剤は、洗い流した後においても使用時の香りをバランスよく持続するものであった。

【0111】実施例5 液体洗浄剤
常法に従って、次に示す処方の液体洗浄剤を調製した。

(重量%)

ラウリルアルコールポリオキシエチレン(12)付加物	10
ソフタノール (日本触媒化学工業社製)	25
ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム	4
ラウリン酸	1
ラウリン酸モノグリセライド (モノグリセライド含有80%以上)	0.5
モノエタノールアミン	5
ラウリン酸アミドプロピルベタイン	2
プロピレングリコール	10
亜硫酸ナトリウム	0.1
エタノール	2
調合香料E	1
水	バランス

計

100.0

この液体洗浄剤は、洗い流した後においても使用時の香りをバランスよく持続するものであった。

【0112】

20 【発明の効果】本発明の乳化組成物は、香気の持続性に優れ、洗い流した後においても所期の香りをバランスよく持続するものである。